

大阪府知事 橋下 徹 殿

大阪府立国際児童文学館の存続に関する要望書

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、貴職が大阪府立施設および出資法人見直しの一環として、大阪府立国際児童文学館と府立図書館の統合を検討されているとの報道がなされております。これに対し、当学会として大変驚くとともに、大きな不安を感じずにはられません。

ご承知の通り、大阪府立国際児童文学館は、国際的な児童文学に関する資料・情報・研究センターとして四半世紀近くを歩み、その間関連資料の収集・整理・公開はもとより、70万点もの資料をベースに、子どもと本をつなぐための研究、専門機関ならではのネットワークを活用した国際的規模の事業などを立案・実行してきました。着実に、資料・人材・組織など有形無形の財産を蓄積し、近年はアジアに重点化した国際交流事業の実施や、子どもと読書に関する研究成果をもとにした実用的な読書活動支援ソフトの開発など、極めて特色のある活動を行っているのはよく知られているところです。

館設立の母体となった12万点の鳥越コレクションは、児童文化・児童文学研究に携わる者にとっては文化財と位置づける国宝級の稀観資料です。そのコレクションをさらに充実させ、国際的規模での研究および児童文学の振興・発展に寄与してきたこれまでの同館の活動は、国内外から高い評価を受けており、日本が誇るべき同館を支え維持してきた大阪府のご努力には、敬意を表したいと思います。

一方で、同館の活動は、その趣旨に賛同する出版社や個人からの支援・協力によっても支えられてきました。日本の出版社団体が、同館の創立以来、この出版不況下においてもなお組織的に多大な書籍を寄贈し続けていることは注目に値すべきことであり、日本において同館の他には例がありません。これは出版社が、同館の網羅的・体系的な資料収集を行い、資料を活用した子どもの本の研究を行うという一貫した理念に賛同したからであり、府民ニーズに添って選択的選書を行い、本の館外貸出を行う一般的な図書館とは機能も役割も全く異なると理解しているからに他なりません。同館は、その機能を維持するために図書館的機能は有してはいますが、決して図書館ではないのです。

我々児童文化・児童文学研究者も、関連資料を責任を持って次代に引き継ぐため、さまざまな形で同館をサポートしていくことが責務と認識しております。具体的には、共同研究・特別研究員等で子どもと本をつなぐ研究を通じて、あるいは展示や講演会などの事業を通して協力したり、また同館創立20周年時には、関連する他学会にも呼びかけて資料購入のための寄付を募ったこともありました。誠にささやかなことではありますが、大事なのは、官と民がともに協力し、ともに足りない部分を補いながら同館を作り上げてきたことです。子どもの本を一つの文化と捉え、その振興をもって子どもの健やかな成長を期したいという府の姿勢に共感したからこそ、民の惜しみない支援・協力が可能になったといえるのではないのでしょうか。

こうした経緯を軽視し、特色ある機能を一般の図書館の枠におさめるという安易な方策は、これまで積み上げてきたものを活かすどころか、取り返しのつかない損失につながるものです。力添えをいただいた国内外のすべての方の信頼や期待を裏切ることにもなります。

次代を担う子どもたちが心身ともに健やかに育ち、子どもと子どもにつながるすべての人が笑顔でいられる大阪であるために、同館の図書館とは異なる使命・重要性を認識いただき、本来の機能を存分に発揮して特色ある活動が行えるよう、施設および財団法人大阪国際児童文学館の存続を強く要望します。

平成20年3月29日

日本児童文学学会会長

向川 幹雄